

通信小海

五月三日

牧師 水草修治

五月三日は憲法記念日である。旧大日本帝国憲法の天皇主権に対して、国民主権をかかげ、旧憲法の帝国主義を平和主義にすっきり塗り替えた新憲法が施行されたのが、一九四七年の五月三日であった。

「日本国民は、正当に選挙された国家における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の悲惨が起るべきことがないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。・・・」と前文

「今月のみことば」

「あなたの父と母を敬え。」

出エジプト二十章十二節

は語る。

そして、今や無視されている観さえある第九

九条はつぎのように語る。

「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」

「前項の目的を達するために、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。」

しかし、有名無実化されているとはいえず、この第九条があったからこそ、米国のこのたびの戦争において日本に派兵を求めるとも、はできず、自衛隊が米軍・英国軍とともに、イラクの人々の頭上に爆弾をばらまくために派遣されませんでしたという事実

である。もちろん、米国の武力行使にいち早く乗りこむ。米国の武力行使にいち早く

日本同盟基督教団 小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 長野県南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六

郵便振替 五三 六一六八三

見晴台の教会へどうぞ

(小海駅東の丘の上)

地図

集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午後一時半と午後七時半

* 八千穂・海尻・川上でも家庭集会あり。

* 個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

く賛同したわが国が戦争に責任がなかったということは、けつしてできないが。残念ながら、いずれはその報いを受けなければなるまい。「剣を取る者は、みな剣で滅びます。」「というのは歴史の主が定めた法則であるから。

聖書は争いをやめられない人間の罪深い性について語る。

「彼らの足は血を流すのに速く、
彼らの道には破壊と悲惨がある。」

また彼らは平和の道を知らない。」

戦争はどこから来るのか。それは、私たちの内側から来る、利己主義から来る。争いは利己と利己の衝突である。主イエスは言われた。

「人の心から出るもの、これが、人を汚すのです。内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、高ぶり、おろかさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」

私たちは、自らが悔い改めなければならぬ。

福音指圧教室

日時五月十一日(日)午後二時

場所教会堂 電話九二・四七七六

腰痛持ちの私は、前回の福音指圧教室でよいことを教わりました。朝起きたら、おなかを「の」の字の順番にゆつくりとポイントをおさえて行くのです。「の」は向かいの人から見て「の」の字です。胃、腸、膀胱、盲腸、肝臓、胃、すい臓、S字結腸という順序で三周ほどゆつくりと押さえます。そしたらびっくり、腰がやわらかくなっていました。

あなたも試してみてください。

無料

山谷に米支援を

東京の監察医務院によれば、ホームレスの路上死が四百四十三件もあったそうです。

その中で栄養欠乏症の二十六人は、胃袋が空っぽの餓死という状態で亡くなっていたそうです。食べ物あふれる日本社会であってはこんなことがあってよいのでしょうか。

連絡先

お米と調味料(しょうゆ・塩・だしのもと)、毛布を必要としています。大根・ニンジンなども助かります。

小海町役場 九二・二五二五

南牧村社会福祉協議会 九六・二二六三

山谷農場:116・0033 荒川区南千住4丁目4-1
ヤマト運輸(株)台東支店止め

藤田 寛: 電話090・1436・6334

カンパ: 千振替 二四・四五三七九六

山谷農場

母の祈り

五月の第二日曜日、母の日は米国の一女

性アンナ・ジャービスから始まりました。

アンナの母親はバージニア州ウエブスターの教会の教会学校で献身的に奉仕をして生涯をまっとうしました。一九〇八年、彼女をしのぶ会がもようされ、そこに娘のアンナが呼ばれました。

感激したアンナは、席上、母をしのんでカーネーションを一束ささげて、「みなさん。一年に一度は母親に感謝を表わそうではありませんか。」と提案したのです。このことはたちまち多くの賛同者を得て、一九一四年(大正三年)には、ウィルソン大統領がこれを全国的な行事に定め、今日では世界中で母の日が記念されることになりました。

旧約聖書にサムエルという預言者が登場します。預言は、未来のことをあらかじめ

め言い当てるということではなく、読んで字のごとく神の言葉を預かることです。民が神のみこころからそれてしまわないために、神のみこころを忠実に伝えるのが預言者の役割でした。サムエルは、そうした預言者として最初の人でありイスラエルの王国時代を開いた高潔で偉大な人物でした。

このサムエルを生んだのは、ハンナという祈り深い女性でした。ハンナは不妊で、そのため悲しくつらい思いを長年してきました。ある年、都の大きな礼拝堂を訪れると、ハンナはそこにひざまずき、心を注ぎ出して神様に向かって祈ったのです。「万軍の主よ。もし、あなたがはしための悩みを顧みて、私を心に留め、このはしためを忘れず、このはしために男の子を授けてくださいますなら、私はその子の一生を主にやささげします。」

主はハンナの祈りを聞き届けられ、男の赤ん坊を授けてくださいました。そこで、彼女は赤ん坊にサムエルと名づけました。その名は「神は聞いてくださる」という意味です。ハンナにとってサムエルはそれこそ目に入れても痛くないほどかわいい男の子でした。けれども、彼女はちゃんと神様に対する誓い

をおぼえていました。生まれた男児を主にやささげするという約束を。

そこでハンナは息子サムエルが乳離れすると、(当時では五歳か六歳)、都の祭司のもとにつれて行きました。やっと与えられた幼い息子を委ねる母の胸中いかばかりだったでしょう。こうして少年サムエルは祭司のもとにあつて信仰的な訓育を受け、成人して、霊的・道徳的に暗黒時代にあつた民に、真理の光、希望の光となつたのでした。一方、母ハンナはわが子と別れた後は、歴史の舞台裏に姿を消します。

サムエルの人生の土台には、母の涙の祈りがありました。母はまもなく別れなければならぬわが子を胸に抱いてどれほど祈ったことでしょう。他の母親が十数年かけて注ぐ愛情のすべてを、この短い年月のうちに注ぎ尽くしたのです。幼くして神に委ねた後も、息子のためにどれほど涙の祈りをやささげたことでしょうか。・・・母親として子どものためにできる最大のことは、なんなのか。ハンナの物語を読むとき、母としてわが子のためにできる最大のことは、それは、祈りなのだと思えるのではないのでしょうか。

^幸福な家庭^

とも二十一年をよつて

衣替えの季節ですね。冬ズボンをしまつて夏ズボンを出してはいてみると、「ウツ苦しい！」中年太りなどというものは縁がないとひそかに誇っていました。二十歳に買ったズボンが四十をすぎてもずっとはけたからです。ところが、昨年夏の終わるところから急にズボンが苦しくなってきた、ついに今春、ズボンのいくつかは処分せざるをえなくなりました。

教会での集会のしめくりに、牧師は両手を上げて神様の祝福がみなさんにあるようにと祈ります。ところが、昨夏のある日曜礼拝のとき以来、右肩がギクツと来ます。四十肩というやつです。

家内と私はいつまでも年齢にふさわしい貫禄が備わってこないのです、自分ではいつまでも若いつもりでいるのですが、中身

は確かに変化してきています。顔のはりがなくなつて、引つ張ると首のあたりはビローンとのびます。エリマキトカゲみたいだと、子どもにおもしろがられます。胸のあたりの肉は、万有引力の法則にしたがつて、いつのまにか下のほうに移動して、しかも脂肪に変化しています。これは何の法則というのでしょうか。悟りでも開いた人は別として、凡人はいつまでも若く美しくありたいと考えます。

けれども、夫婦が十年、二十年、三十年、四十年とも年をとつて行きながら、たがいに愛すること赦すこと信じることを学んでいくことができたなら、そこには深い満足感があるものです。おたがいしよばくれたすがたを見て、ああいつしよに苦労してきたんだなあとしみじみ感じる・・・というほどの年でもありませんが、そういうことがだんだん実感できるようになってきました。

そう。福音指圧教室でならつたことをメモしておいて、家内が腰や肩を押してくれるとき、「イテテテ、ああ気持ちいい。」と言いながら、夫婦として歩んで

こられたことを感謝するのです。どちらかというところ、指圧してもらつたのは私ばかりなのは、申し訳ないことですが。

神様は最初の夫婦をお造りになるときに、その妻を夫のわきの下のあばら骨から造られたと聖書に啓示されています。最初の男は感激のあまり、人類初のラブソングを歌いました。無骨な恋歌を。「これこそ私の骨からの骨、私の肉からの肉。」

こういふわけで夫と妻は、そもそもがひとりなのです。どうして神様は女を男の頭の骨から造らず、また足の骨から造らず、あばら骨から造つたのでしょうか？もし頭蓋骨を取つたら頭がブヨブヨになつてしまふし、足の骨を取つたら歩けないけれど、あばらなら一本とつても平気だからといえれば合理的な答えでしょう。でも有名な聖書注解者は言いました。「女は男の頭の骨からは造られなかつた。女は男を支配するために造られたのではないから。女は男の足から造られなかつた。男に踏みつけられるために造られたのではないから。女は、男のあばら骨から造られた。それは男の力強い腕に守られるため、また彼のハートにもっとも近くあるために。」